

平成 30 年度 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業
(発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法研究事業)
成果報告書 (I)

実施機関名 (徳島県教育委員会)

1. 問題意識・提案背景

(1) 前年度の事業概要, 背景・問題意識, 提案理由

発達障害の可能性のある児童生徒の特徴として「失敗に対する耐性の弱さ」が挙げられ、こうした子どもの学習意欲の維持には、子どものつまずきに応じた教材に「エラーレス（失敗なし）」に取り組むことが有効とされている。また、他の特徴として「否定的な指導（叱責など）による二次的な障害の併発」が挙げられ、これに対しては「望ましい行動を育てる」ことに重点を置いた「ポジティブな行動支援」の有効性が確認されている。

徳島県は、平成 27, 28 年度に、専門家との協働のもと、子どものつまずきやすい学習課題を分析し、スモールステップで構成された子どもが自ら取り組む「学習教材」の試行的な開発を行い、これらを授業で活用した結果、児童の正答率及び正答速度が向上するとともに、成功体験増加に伴い難易度の高い課題に前向きに取り組む様子が見られた。

しかし、平成 27, 28 年度の「学習教材」開発においては、子どものつまずきポイントをスモールステップに分ける課題分析や、一つ一つの問題をランダムに配置する作業に高い専門性が必要であるため、作成課程の多くを大学教員が行った。事業終了後も継続して「学習教材」の作成を可能とするためには、課題分析や効率的に教材作成を行うスキルを教員自身が身につけることが大きな課題として残った。

平成 29 年度の事業においては、発達障害の可能性のある児童を含めた、通常学級での教科指導等における教員の専門性の向上を目指し、専門家との協働のもとに教員自らが「学習教材」の作成ができる育成プログラムを開発した。その結果、教員が算数の「平均」「割合」「割り算を使った文章題」に関する学習教材を作成するとともに、教材作成過程に携わった教員は児童のつまずきを見極め、教材化する能力を身につけることができた。

併せて、平成 28, 29 年度、研究指定校において、集団指導や個別指導の充実を目指した専門家との協働による「学校コンサルテーション」、及び「望ましい行動を育てる」ことに重点を置いた「学校全体で取り組むポジティブな行動支援」を実践した。その結果、授業に必要な物の準備や着席行動といった学習準備行動等の向上が見られるとともに、授業中や休み時間の問題行動が減少した。

これらの結果を受けて、平成 30 年度においては、できあがった学習教材の授業の中で活用方法、及び研究指定校以外での活用推進の方法を検証する必要がある。また、教員の専門性向上のため、専門家との協働のもとに「子どものつまずきに応じた学習教材」の作成ができる教員の育成プログラムを運用することも重要である。さらに、「ポジティブな行動支援」に基づく学習準備行動等の向上を他の学校に拡大する方法についても、実践研究を行う必要がある。

(2) 指定校選定の理由

加茂小学校は、平成 28, 29 年度に「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期・継続

支援事業」で、「学校全体で取り組むポジティブな行動支援」や学校コンサルテーション、「学習教材」の作成と児童への適用後の分析等を行った。こうした取り組みの経験を有する教員が数多く在籍しているため、平成30年度における「子どものつまずきに応じた学習教材」作成のための教員育成プログラム開発、及び学習教材の授業での活用を検証する拠点としての研究指定校（以下、指定校と記す）にふさわしい。

また、平成29年度開発した学習教材、及び「全校で取り組むポジティブな行動支援」の適用拡大に関する検証を行うため、指定校と同じ東みよし町内にある、足代小学校、昼間小学校、三庄小学校を協力校として選定する。

2. 目的・目標

通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある児童生徒を含む、学びにくさのある子どもに対する教科指導等における教員の専門性の向上を図る。

そのために、教員自らが「子どものつまずきに応じた学習教材」を作成するとともに、授業の中での学習教材の活用方法を明らかにする。また、教科教育スーパーバイザーによる「学校コンサルテーション」を通して、発達障害の可能性のある児童に対する通常の学級での教科指導等において、その特性や実態を踏まえた学習指導の方法について実践研究を深める。

さらに、授業内容を理解するための前提となるスキルである「学習準備行動（例えば、「話者への注目」「教科書等の準備」「正しい姿勢」など）」については、「ポジティブな行動支援」の考え方に基づく取組を継続して進め、有効性の検証を行う。また、指定校の取組を3校の協力校へ拡大する取組を通して、効果的な実践の普及方法を明らかにする。

3. 主な成果

(1) 「子どものつまずきに応じた学習教材」作成のための教員養成プログラムの運用及び改善

法政大学の島宗理教授や大阪教育大学野田航准教授などの専門家の指導のもと、「子どものつまずきに応じた学習教材」を2種類開発した。

また、指定校及び協力校で前年度に開発した「割り算を使った文章題」や「平均」についても授業に導入した。いずれの教材も発達障害の可能性のある児童を含めたほとんどの児童に効果的であった。

指定校においては、算数科のアセスメントを行い、担任を中心とした全教員で結果を分析し、自らの学級の児童の実態に合わせて授業の中で用いる教材を作成・選定したり、新たに改良したりした。また、児童の意欲を喚起するための自己評価表も新たに開発・導入して、個別的な指導においても活用することができた。

(2) 学校コンサルテーションによる学習指導への支援

大阪教育大学の野田航准教授をアドバイザーとし、指定校において5回の学校コンサルテーションを実施した。アドバイザーの助言を受け、学級毎の児童の実態に応じた授業改善に取り組んだ。「算数チャレンジ（*算数の授業において実施したプログラム）」や「漢字チャレンジ（*国語科の授業で活用したプログラム）」を指定校の1～4、6年生において実施し、基礎計算の流暢性向上や漢字の読み書き力の向上などの成果が見られた。

また、指定校の5年生において教科学習上のつまずきに対応した児童同士のピアサポ

ート（＊「学び合い」）に必要な改善を行った。学校全体で取り組むポジティブな行動支援で培った力を背景として、発達障害の可能性のある児童を含む通常の学級でのピアサポートシステムを作ることができた。

（３）「ポジティブな行動支援」の有効性の検証

指定校及び協力校で授業内容を理解するための前提となる「ポジティブな行動支援」の考え方に基づく取り組みを行った。

指定校と同じ東みよし町内にある、足代小学校、屋間小学校、三庄小学校を協力校とし、アドバイザー３名を選定して、各校３～４回の学校コンサルテーションを行った。その結果、各校で「ポジティブな行動支援」の考え方に基づく取組が児童らに定着し、不安や情緒不安定などの改善に役だった。さらに、チャイム前の着席行動や学習準備行動、授業中の発表に関する行動の改善ができた。

また、その成果をリーフレットにして県内・外へ周知を行うとともに、徳島県立総合教育センターホームページにも掲載し、成果の普及・広報も積極的に行った。

（４）実践研究報告会の開催

平成 30 年度の成果報告会を次のとおり実施した。

日時：平成 31 年 2 月 15 日（金） 午後零時 45 分から午後 4 時 50 分まで

平成 31 年 2 月 16 日（土） 午前 8 時 45 分から午後零時 15 分まで

会場：徳島グランヴィリオホテル

対象：幼稚園、小・中学校、高校、特別支援学校教職員、福祉施設職員等

県外参加者については、先着順で受付

参加者 1 日目：153 名、2 日目：152 名

内容：平成 31 年 2 月 15 日（金）

（１）シンポジウム（13：35～15：05）

「みんなで考えるポジティブな行動支援！～みなさんの疑問・質問に答えます～」

畿央大学 准教授 大久保 賢一

近畿大学 准教授 大対 香奈子

大阪教育大学 准教授 野田 航

大阪樟蔭女子大学 講師 田中 善大

大阪教育大学 特任准教授 庭山 和貴

（２）学校コンサルテーションに係るポスター発表（15：05～16：50）

事例発表：27 事例

内容：平成 31 年 2 月 16 日（土）

（３）自律型学習教材の成果報告（9：15～10：30）

実践報告「子どもの『できる』を伸ばす学習支援

～東みよし町立加茂小学校の取組～

大阪教育大学 准教授 野田 航

総合教育センター特別支援・相談課 指導主事 樋口 直樹

（４）シンポジウム（10：45～12：15）

『褒める・認める』子どもと教師で創るみんなが幸せな学校！～東みよし町 4 小学

校の取組から考える～」

畿央大学 准教授 大久保 賢一
近畿大学 准教授 大対 香奈子
大阪教育大学 准教授 野田 航
大阪樟蔭女子大学 講師 田中 善大
大阪教育大学 特任准教授 庭山 和貴
総合教育センター特別支援・相談課 指導主事 樋口 直樹

4. 取組内容

① 教科の学習上のつまずきなど特定の困難を示す児童生徒に対する指導方法及び指導の方向性の在り方の研究

1. 「子どものつまずきに応じた学習教材」作成のための教員養成プログラムの運用及び改善及び学校コンサルテーションによる学習指導への支援〈算数科の取組〉

(1) 対象とした学校種, 学年

小学校, 1～5年生

(2) 教科名

小学校算数科

(3) 実施方法

ア. 教科指導法研究事業運営協議会

【第1回事業運営協議会】

(ア) 概要

平成30年4月25日(水) 場所: 東みよし町中央公民館

(イ) 協議内容

- ・教科指導法研究事業の取組内容の説明
- ・研究支援体制の情報共有
- ・年間計画, スケジュールの共有
- ・アドバイザーによる「ポジティブな行動支援」の研修(畿央大学 大久保賢一 准教授)

(ウ) 参加者

アドバイザー, 東みよし町教育委員会関係者, 徳島県教育委員会関係者, 徳島県立総合教育センター関係者, 指定校及び協力校関係者, 池田支援学校特別支援教育巡回相談員等24名

【第2回事業運営協議会】

(ア) 概要

平成31年2月16日(土) 場所: グランヴィリオホテル(徳島市)

(イ) 協議内容

- ・本年度の成果と課題について(総括)
- ・成果の県内全体への普及方法について

イ. 教科教育スーパーバイザーの配置及び活動について

アドバイザー名	実施時期	実施内容
法政大学 島宗 理 教授 大阪教育大学 野田 航 准教授	平成 30 年 6 月 14 日 「子どものつまずきに 応じた学習教材開発研修」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科学習上の子どもつまずきを実態把握する方法について ・ つまづくポイントを踏まえた教材作り ・ 平成 29 年度に開発した学習教材の実証について
【加茂小学校】 大阪教育大学 野田 航 准教授	平成 30 年 5 月 10 日 学校コンサルテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実態把握の方法について ・ 取組内容の周知, 教材開発について ・ 算数アセスメントの実施について
	平成 30 年 7 月 19 日 学校コンサルテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材開発について ・ 授業観察及び研究協議 (ピアサポート)
	平成 30 年 8 月 10 日 合同研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 算数アセスメント結果を受けて, データの分析作業 ・ 授業での活用について
	平成 30 年 9 月 27 日 学校コンサルテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 算数チャレンジの具体的な授業での運用について
	平成 30 年 12 月 7 日 学校コンサルテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業観察及び研究協議 (ピアサポート) ・ 児童へのフィードバック方法について ・ 算数チャレンジの取組状況についての情報共有
	平成 31 年 1 月 31 日 学校コンサルテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取組の振り返り, 総括 ・ 算数アセスメントの結果についてのデータ分析作業 ・ 授業観察及び研究協議 (ピアサポート) ・ 成果と課題のまとめ

徳島県立総合教育センター指導主事による指定校訪問

(平成 30 年 4 月 26 日, 平成 30 年 11 月 27 日, 平成 30 年 12 月 20 日, 平成 31 年 2 月 13 日)

ウ. 本事業のために教育委員会が実施した主な研修・指導主事の主な訪問等

(ア)「ポジティブな行動支援」の有効性の検証について

東みよし町の幼小・中学校の教職員に対して, 取組の基盤として発達障害に関する研修会を実施した。また, 町内で「ポジティブな行動支援」を進めていくために, リーダー的な立場の教員を対象にその考え方の浸透を図るため, 年間 3 回 (5 月, 8 月, 11 月) の教員研修を実施した。

協力校である三庄小学校, 昼間小学校, 足代小学校で, アドバイザーによる学校コンサルテーションを年間 11 回行った。そのうち 8 月 10 日には東みよし町の 4 小学校 (加茂・三庄・昼間・足代) の教員 57 名が集まり, アドバイザーによる合同研修会を行った。

協力校では, 教科学習の前提となる「学習準備行動」などの規範行動が児童に定着した。チャイム前の着席行動や学習準備行動, 授業中の発表に関する行動の改善ができた。ま

た、「ポジティブな行動支援」の考え方に基づく取り組みが児童らに定着し、取組終了後に児童に行ったアンケートでは、各校で「不安」や「情緒不安定」などに有意な改善が見られた。

(イ) 発達障害教育研修

【発達障害教育研修会の実施】

(1) 開催概要

日時：平成30年8月7日(火)

会場：徳島県立総合教育センター

講師：近畿大学 准教授 大対 香奈子氏

演題「応用行動分析に基づく子どもの理解と支援」

(2) 研修内容

- ・応用行動分析の基本（強化，弱法の原理）から問題行動理解シート，行動支援シートを用いた事例検討（6グループに分かれて実施）。
- ・適切な行動を増やすための手立て，失敗させない工夫，環境設定について

(3) 参加者数

総数 40 名

(4) 参加者の感想

- ・応用行動分析の基本から，実際のグループワークまで実践的な内容であった。
- ・講義を聞きながら演習することでとても分かりやすかった。
- ・行動支援シートを使って話し合いができ，ABC分析の進め方がよく分かった。
- ・問題についての手立ての立て方を知ることができたので，望ましい行動につながるよう生かしていければ良いと思う。

(1) 開催概要

日時：平成30年12月27日(木)

会場：徳島県立総合教育センター

講師：視機能トレーニングセンターJoyVision 代表 北出 勝也

演題「発達の気になる子の学習・運動が楽しくなるビジョントレーニング」

(2) 研修内容

- ・ビジョントレーニングとは
- ・ビジョントレーニングの具体的なトレーニング方法についての演習
- ・実践事例紹介

(3) 参加者数

総数 70 名

(4) 参加者の感想

- ・ビジョントレーニングを行うことによって，どのような変化があったのか，またその効果を知ることができた。
- ・視空間認知の弱い児童の支援方法として活用できる。
- ・短い時間でできる教材がたくさんあったので，学校で簡単に活用できるなと思った。
- ・困り感や特性を持った子どもたちの理解や具体的支援を学ぶことができた。

(ウ) 発達障害教育講演会

【発達障害教育講演会の実施】

(1) 開催概要

日時：平成30年11月3日(土)

会場：徳島県立総合教育センター

講師：大阪医科大学LDセンター顧問 竹田 契一 氏

演題「児童期・思春期の発達障害のある子どもたちの基礎理解と教育的支援～学習面での
つまずきを中心に～」

(2) 研修内容

- ・発達障害の子どもの特性について
- ・子どものつまずきや学び方の特性を把握する際のポイント

(3) 参加者数

- ・369名（教育関係者，一般県民含む）

(4) 参加者の感想

- ・具体的な支援方法を聞くことができた。
- ・具体的な子ども像から子どもの見方をしっかり考えることができた。
- ・発達障害のある子ども達がつまずくポイントがよくわかった。

(エ) 特別支援学校センター的機能強化研修会

【特別支援学校センター的機能強化研修会の実施】

(1) 開催概要

日時：平成30年9月13日(木)，12月7日(金)，平成31年1月15日(火)

会場：東部（板野支援学校），南部（阿南支援学校），西部（池田支援学校）

講師：東部，南部 大阪樟蔭女子大学 講師 田中善大

総合教育センター特別支援・相談課 指導主事 大久保秀昭

西部 近畿大学 准教授 大対香奈子

総合教育センター特別支援・相談課 指導主事 大久保秀昭

演題「ポジティブな行動支援の考え方と自律型学習教材の活用について」

(3) 研修内容

- ・ポジティブな行動支援について
- ・センター的機能を発揮する際の自律型学習教材の活用方法について
教科学習上の子どもをつまずきを実態把握し，つまずくポイントを踏まえた学習教材作りを実施した（平成30年6月14日）。この学習教材（時計の練習等）について紹介し，特別支援学校のセンター的機能を活用し，地域の小・中学校へ普及するための研修を行った。

(3) 参加者数

総数 218名

(4) 参加者の感想

- ・ポジティブな行動支援の考え方を地域支援に生かせると感じた。
- ・自律型学習教材については，支援学校の児童生徒にも，地域の児童生徒にも活用できると感じたので，教育相談等で紹介したい。

(4) 取組の概要

ア 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

①実態把握の時期，実態把握の方法

5月（指定校の学級担任並びに校内委員会：行動観察）

7月（学級担任：算数アセスメント（*アドバイザーが開発））

②教科学習上のつまずきに対応した学習教材の開発

6月（アドバイザーの指導のもと，つまずくポイントに合わせた学習教材を開発）

③算数アセスメントの結果の分析及び授業での活用方法検討

8月アドバイザーの指導を受け，指定校の各学級担任が学級児童の実態に応じた教材
開発・選定

④児童がつまずいているポイントの整理

- ・基礎的計算や数処理が自動化できておらず，通常想定される時間よりも処理に時間を要する。
- ・学習に取り組む時間が長くなると，集中力が続かない。
- ・計算がスムーズにできないことから，問題量が多いと取組始めが遅くなりがちで，意欲も低い。

イ 実施した指導方法（工夫した点）

（i）授業における全体指導，個への指導について

〈算数科の授業における「算数チャレンジ」の実施〉

- ・算数の授業への意欲付けを図るため，アドバイザーと共同で開発した教材（数系列，数の大小比較，たし算，引き算，かけ算，わり算，四則混合計算など）を算数科授業の冒頭5分程度（児童が計算を行うのは1分）で実施した。
- ・週4日程度繰り返し実施し，どの教材を選択するかは，児童の取組状況様子を見ながら担任が適切に判断して構成した。
- ・個別のファイルを作成し，児童がどのくらいの量を正答したか，積み上げ式のグラフにして，自分の成果を可視化した。

（ii）個別指導について（取り出し指導，通級による指導との連携など）

- ・放課後やドリルタイムで学級担任が必要と判断した児童について指導を行った。教員が児童のつまずきに応じた教材を作成し（さくらんぼ算のプリントや穴あき九九など），フォローを実施した。

2. 「子どものつまずきに応じた学習教材」作成のための教員養成プログラムの運用及び改善及び学校コンサルテーションによる学習指導への支援〈国語科の取組〉

（1）対象とした学校種，学年

小学校，6年生

（2）教科名

小学校国語科

（3）実施方法

イ. 教科教育スーパーバイザーの配置及び活動について

アドバイザー名	実施時期	実施内容
【加茂小学校】 大阪教育大学 野田 航 准教授	平成30年5月10日 学校コンサルテーション	・実態把握の方法について ・取組内容の周知，教材開発について ・漢字学習のアセスメントについて

	平成 30 年 7 月 19 日 学校コンサルテーション	・教材の提示方法について ・児童のつまずきの分析
	平成 30 年 9 月 27 日 学校コンサルテーション	・漢字チャレンジの取組状況の確認 ・個別の児童の様子について
	平成 30 年 12 月 7 日 学校コンサルテーション	・取組の振り返り ・成果の分析と課題について

徳島県立総合教育センター指導主事による指定校訪問

(平成 30 年 4 月 26 日, 平成 30 年 11 月 27 日, 平成 31 年 2 月 13 日)

ウ. 本事業のために教育委員会が実施した主な研修・指導主事の主な訪問等

【発達障害教育研修会の実施】

(1) 開催概要

日時：平成 30 年 8 月 9 日(木)

会場：徳島県立総合教育センター

講師：国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津 亜希子

演題「多層指導モデル MIM を通した読みの流暢性への指導」

(3) 研修内容

- ・ MIM について（開発の背景や考え方等）
- ・ MIM を活用したアセスメント及び指導の仕方について
- ・ MIM を実施する際のポイントや実施方法の演習

(3) 参加者数

総数 48 名

(4) 参加者の感想

- ・ いかに子どもの頃の特殊音節習得が必要かを改めて感じた。
- ・ 高校でも文をすらすら読めなかったり、句読点を無視したりする生徒がいる。今回学習したことを生かしていきたい。
- ・ 早期支援の重要性、語を確実に読めることが、読解力に繋がっていくことなど興味深く話を聞く事ができた。
- ・ 予防という考え方の手法の一つを学ぶことができた。

(4) 取組の概要

ア 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

①実態把握の時期, 実態把握の方法

6~7 月（学級担任・校内委員会・指導主事：行動観察, 過去のテスト分析）

②教科学習上のつまずきに対応した学習教材の開発

8 月（アドバイザーの指導のもと, つまずくポイントに合わせた学習教材を開発）

③授業改善, 教材活用方法の検討

8 月（漢字の学習を意欲的に行う授業の組み立て方を検討）

④児童がつまずいているポイントの整理

- ・ 高学年になるほど, 単漢字（1 文字）で漢字を覚えることが減り, 熟語（2 文字以上の組み合わせ）で漢字を覚えることが要求される。

- ・イメージ化の弱い子どもや文字から意味の関係をつかむことが苦手な子どもほど、漢字を覚えることにつまずきやすい。
- ・字形から意味を類推することができず、繰り返し書くという機械的操作による方略で無理矢理覚えようとしている。

イ 実施した指導方法（工夫した点）

（i）授業における全体指導，個への指導について

〈国語科の授業における「漢字チャレンジ」の実施〉

- ・国語科学習への意欲付けを図るため，アドバイザーの指導のもとに開発した教材（パワーポイントを用いた漢字の読み教材）を国語科授業の終末5分程度で実施した。
- ・週2日，アドバイザーから指導があった順序で実施した。
- ・漢字の読み（音声提示），漢字の字形と意味を表すイラスト（視覚提示）の組み合わせで教材を提示した。また，実施時間は3分程度で終了するように行った。

（ii）個別指導について（取り出し指導，通級による指導との連携など）

- ・「ポジティブな行動支援」の考え方に基づく実践を行っているので，学級担任が個別に児童らの努力を称賛したり，漢字ノートにコメントを書いたりした。

5. 今後の課題と対応

（1）「子どものつまずきに応じた学習教材」作成のための教員養成プログラムの運用及び改善

- ・作成した教材を徳島県立総合教育センターのホームページで公開し，県内での普及に向けて広報を行う。併せて通常の学級での授業改善を事例化し，徳島県立総合教育センターのホームページで公開し，広報する。
- ・教材の作成手法を持つ教員を中心に引き続き教材作成に取り組み，児童らのニーズを的確に把握し，つまずきに合わせた改善を行っていく。

（2）学校コンサルテーションによる学習指導への支援

- ・本事業で効果が見られた学習支援の手法を，今後同じような困難さのある通常の学級の他の児童にも適応していきたい。また，取組で活用した教材をさらに児童のニーズに応じて改良したい。
- ・学校コンサルテーションで活用したアドバイザーと引き続き連携して，県内の他地域でも同じような学習支援の枠組みが作れるよう，県として対応していきたい。

（3）「ポジティブな行動支援」の有効性の検証

- ・指定校や協力校での取組を通して「ポジティブな行動支援」の有効性が確認できた。本事業で作成したパンフレット等を活用して，成果を県内に広めていきたい。また，職務研修等の教員研修の機会も活用して，「ポジティブな行動支援」の考え方の浸透を図る。

6. 問い合わせ先

組織名：徳島県教育委員会

- | | |
|-------------|--|
| (1) 担当部署 | 特別支援教育課 |
| (2) 所在地 | 徳島県徳島市万代町1丁目1番地 |
| (3) 電話番号 | 088-621-3142 |
| (4) FAX 番号 | 088-621-2882 |
| (5) メールアドレス | tanaka_kiyofumi_1@pref.tokushima.lg.jp |